

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|---|
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校 |
| ○児童・生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童 |
| ○教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れている。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力や表現力にも課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。タブレットは学年が上がるほど、使いこなしている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。外国語・外国語活動の校内研究にも熱心に取り組み、授業力向上を目指している。
- 地域・保護者…学校創立119年目の伝統とともに、日々地域の力に支えられている。家庭との連携をさらに密にし、基本的生活習慣の定着に努めている。また、PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的である。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上プロジェクトを中心に、全校で基礎学力の定着・向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が1月の再実施では、国語・算数ともに4月調査の結果より+14.5%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均より-0.3%まで迫ることができた。今後の課題は、引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用し、体験的活動を一層推進していく中で、児童が主体的に学ぶ学習を目指していくことである。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、温かな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。運動好きの児童が多く、年間を通した体育的活動や区のスポーツ大会で活躍した。体力テストの結果を反映し、体力向上策を立てて取り組んだので、今後も継続して取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園・中学校と積極的に交流することができた。地域や地域人材を活用した学習を進めることができたので、今後も継続して全学年で取り組み、地域の中の湊江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

| 4 重点的な取組事項 | | | | | | |
|------------|--------------|--------------------|----|----|----|----|
| | 内 容 | 実施期間（年度） H:平成 R:令和 | | | | |
| | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 健康な心身の育成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 家庭・地域との連携 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

5 令和2年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|---|-----------|---|---|---|-----------------------|---|---|---|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| 全校で、基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組を計画的に行う。 | | 区学力調査2月の学校全体目標値通過率、国語・算数共に78%以上。各学年最低70%。令和3年度4月には国語・算数共に80%の通過率を目指す。 | | 区学力調査2月の学校全体目標値通過率、国語72.5%・算数84.3%。2年生算数68.3%、3年生国語63.4%、6年生国語68.1%だった。 | | 目標とする78%以上に国語が届かなかった。授業時間内や放課後補習教室で個別指導を積み重ねてきた。2年生算数は、全ての問いに答えていない現状がある。来年度は、国語算数ともに活用力をつける教材に取り組んでいく。具体的な取組は6(1)を参照 | | △ | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象教科 実施教科 | 頻度・ 実施時期 | 具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認 方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 改善 | パワーアップタイム | 国語 算数 | 火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文・読解 朝の会 開始前 15分。 音読水 曜以外 7分 | 【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 読み・書き・計算を身に付ける。 【使用教材】 前学年までの漢字、計算ドリル、音読、読書、短作文、読み取り教材。 【どのように】 丸付けはその日のうちに担当が行い、当日中に返却する。 | 長期休業前に漢字・計算のテストを実施する。 | 1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。 長期休業前に漢字・計算のテストで全80%以上の正答率 | ・取組みについては、100%実施できた。 ・ミニテストの結果については、80.5%から85.5%の正答率だった。 | 各クラスとも真剣に取り組んでいるが、学校全体の決まり（毎週火（計算・音読）等）を遵守できなかつたり、音読がおろそかになったりすることがあり、OJTで取組み方の再確認をした。意図的・計画的に取り組めるようにする。 | △ |

| | | | | | | | | | |
|----|--------------------|----------------------|--------------------|---|-----------------------|--|--|---|---|
| 改善 | 放課後補習教室 (けやき教室) | 国語 算数 | 火・金・ の週2 回設定 | <p>【指導者体制】 担任＋専科＋COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル等</p> <p>【どのように】 SP 表分析や単元テストを元に、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。</p> | 1 回 30 分×年間 40 回以上 | 補習開始時と終了後の確認テストで正答率を開始時の70%以上に引き上げる。 | 年間 50 回実施した。事前に保護者に手紙を配布し、確実に実施することができた。定着度確認テストで正答率 30%未満の児童はいなかった。その他の児童は、学習後は全員 80%以上の正答率になった。 | 個々の課題に特化した補習のため、成果があった。また、全校体制で取り組むことができたことは大きな成果である。分散登校時から課題のある児童に個別指導ができたことはよかった。今後も単元テストや学力調査の分析を基に指導していく。 | ◎ |
| 継続 | 基礎的・基本的な内容の理解の徹底 | 国語 算数 理科 社会 | 通年 | <p>各教科の学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードに沿ったノート指導 ・足立スタンダードに沿った進め方 <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語以外でも文章を書く機会（振り返りを記入する等）を必ず設ける。 <p>主体的・対話的で深い学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での対話的な時間を確保する。 | 区学力調査、年度末の目標通過率 78%以上 | 区学力調査後に 12 月と 2 月に確認テストを実施 各回 10%アップ | <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードに沿ってノート指導や授業を進めることができた。 ・どの教科でも振り返りの時間をとり、ノートに書かせた。 ・コロナ禍ではあったが、対話を大切に授業を進めることができていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査年度末の通過率は 78.4%だった。(来年度 4 月の問題) ・12 月に行った 7 月に実施した問題の再調査では、2 教科平均 95.7%の通過率となり、プラス 13.6%になった。 | ○ |
| 新規 | けやきタイム | 1, 2 年 | 週 1 時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の定着を図る。 ・つまずき解消に向けた指導を行う。 | 区学力調査年度末の目標通過率 80%以上 | 年間 20 回以上実施 | 年間 35 回実施した。1 年生は読み取りの練習が充実した。 | 1 年生 89.7%、2 年生 72.5%。2 年算数に課題が残った。 | △ |
| 新規 | ICT を活用した授業力の向上 | 全教科 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を使った授業を行い、児童の意欲を高め、深い学びにつなげる。 ・ICT 担当による校内研修。 | 授業観察時にタブレットを活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時に 1 回以上授業 ・校内研修を年 3 回 | タブレットの活用が進んだ。校内研修も実施し、使用頻度は格段に高まった。 | 児童の意欲を高め、深い学びにつなげることができるよう、今後も効果的に活用していく。 | ○ |

| 重点的な取組事項－2 | | 健康な心身の育成 | | | |
|---|----------------------------|--|---|---|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 ・昨年の結果を基に計画的に取り組む | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価 96%。 ・体力向上策が思うように進まなかった。 | 様々な課題には組織で対応してきた。引き続き、あたたかな人間関係を築いていく。児童の体力向上へ向け、計画的に取り組んでいく。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 挨拶の励行 | 学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校時や来校者への挨拶の徹底。 ・家庭・地域への啓発。 | 2回目の保護者アンケート評価は、81%が肯定的。来校者への挨拶は少しずつできるようになってはきている。 | 毎朝校門で生活指導委員会の児童と共に挨拶を実施。定着してきた児童を手本に、引き続き指導していく。 | ○ |
| いじめの根絶・不登校の解消 | いじめの解消 100% 不登校の解消 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 ・スクールカウンセラー・関係機関との連携 ・道徳授業、学級活動の充実 | いじめの解消 100% 不登校の解消 97%。不登校傾向の3名に関しては、個々に対応中。いじめ防止対策委員会・特別支援校内委員会を毎月1回開き、いじめの解消率を100%にした。 | 全校朝会の校長講話で、人権やいじめ防止等の話を6回実施。引き続き、組織で対応していく。 | ○ |
| 体育的活動の充実 | 体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む | 体力調査の項目について、体育授業の始め5分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。 | 運動に制限がある1年でもあり、確実に取り入れることができなかった。 | 今後、引き続き、取り組んでいく。 | △ |

| 重点的な取組事項－3 | | 家庭・地域との連携 | | | |
|---------------------------------------|-----------|---|---|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。 | | 学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 85%以上 | 学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 74%と昨年度より3%マイナスになった。 | コロナ禍で難しい面が多々あったので、来年度は積極的に取り入れる。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 地域や地域人材を活用した教材の開発 | 各学年2回以上実施 | 1,2年は生活科で公園探検や地域探検、3～6年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習。3年以上は、ICTを効果的に活用する。 | コロナ禍でもあったが、1,2年は元淵江公園に出かけ、2年の町探検は夏休みの課題とした。3～6年は外部機関との連携を図った授業を取り入れた。ICTも効果的に使った。 | 1年の人権授業、2年の町探検、3年は町との関わり、4年は伝統文化落語、6年はキャリア教育で来年度につなげていきたい。来年度も引き続き取り組んでいく。 | ○ |

| | | | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|---|
| 幼稚園・保育園との連携 | 1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進 | 保育園との交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施。 | 幼保園教諭が授業参観。5歳児に、学校紹介ビデオを1年生が作成。展覧会に5歳児来校。 | コロナ禍でもできることを取り組んだ。 | ○ |
| 保護者による年間2回の学校評価の実施 | 2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上 | 年2回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。 | 平均回収率は81%。「家庭や地域の声を学校は受け入れ改善していますか」の項目において、当てはまる、だいたい当てはまるとの回答が75%。 | 引き続き、地域・保護者の声を取り入れて教育活動をすすめていく。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

【課題】・国語においては、通過率が72.5%であり、読解力に大きな課題がある。文学的文章・説明的文章ともに、書かれていることや問われていること
の理解が正しくできていない。

【対策】・週1時間、読解力・思考力育成のため、「けやきタイム」を全学年導入し、活用力をつける教材を使用して国語・算数を指導する。国語では様々な問題文に取り組みせ、読み取りの仕方について指導していく。算数では、習熟の図れていない単元について指導のし直しも行う。

児童も教職員も一つ一つ、やるべきことを丁寧にするを常に意識して日々努力を重ねてきた。学力向上に向けての取り組みでは、1年生が「けやきタイム」で読み取りの指導を丁寧に行ってきた成果が表れているので、全学年に広めていきたい。あいさつの取り組みでは、少しずつ校舎内や来客等にもできるようにってきているので、今後も継続して取り組む。体力向上に向けては、今年度思うように実施できなかった分、年間を通した向上策を取り入れ、向上を図っていく。児童同士のトラブル等もあったが、校内委員会をすぐに関き、組織的に対応を重ねてきた。保護者の皆様のご理解とご協力もあり、解決に至っている。今後も心の教育の充実を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ禍の中、教員は日々授業改善しながら毎日の授業に取り組んでいます。また外国語活動・外国語科の研究にも取り組み、児童の「外国語を使いたい」という意欲が向上してきています。放課後補充教室である「放課後けやき教室」では子供たちと個別に向き合い、基礎・基本の定着に努力しております。7月の学力調査は前年より+6.7%の結果が出ました。日々の地道な取り組みの成果が出て、12月の再調査では約95.7%の児童が前年度までの学習内容をクリアしました。開かれた学校づくり協議会の皆様のご協力の下、理科園芸委員の児童と共に花いっぱい活動に取り組み、生活科池をビオトープに変えました。また、児童の活躍の場を広げる意味で百人一首の検定の他、「詩」の暗唱検定も実施しました。今年度は、なかなか生活科や総合的な学習の時間に、地域に出かけたり地域の皆様のご協力を得たりと、活動の範囲を広げることができませんでしたが、来年度は120周年の記念すべき年です。「地域の中の湧江小学校」として今後も活動させていただきます。「笑顔あふれる湧江小」を常に目標に掲げ、進化し続けたいと考えています。

(3) その他(学校教育活動全般について)

制約のある生活の中でも、高学年がお手本を示し、下学年をリードしてきた。展覧会という大きな行事に向け、一人一人の力を結集させ、最高の展覧会を開催できたことは児童にとって大きな自信となり成長につながった。7月の学力調査から12月の再調査では、約9割の児童が目標を達成した。生活面では、相手の気持ちにたてず友達を傷つけてしまうことや言葉の使い方が乱暴になる場面も見られた。今後も組織的に対応と指導を行い、あたたかな人間関係を育てていく。本校の伝統である、「落語・俳句・将棋・百人一首」にも多くの方が関わってくださるおかげで、児童も活躍の場を広げている。今後も、保護者・地域の皆様との連携を密にし、協力をいただきながら、学校・保護者・地域が一つになって「笑顔あふれる湧江小」にしていく。そのために、日々生じる課題に迅速に対応しながら、持続可能な活動を模索していきたい。